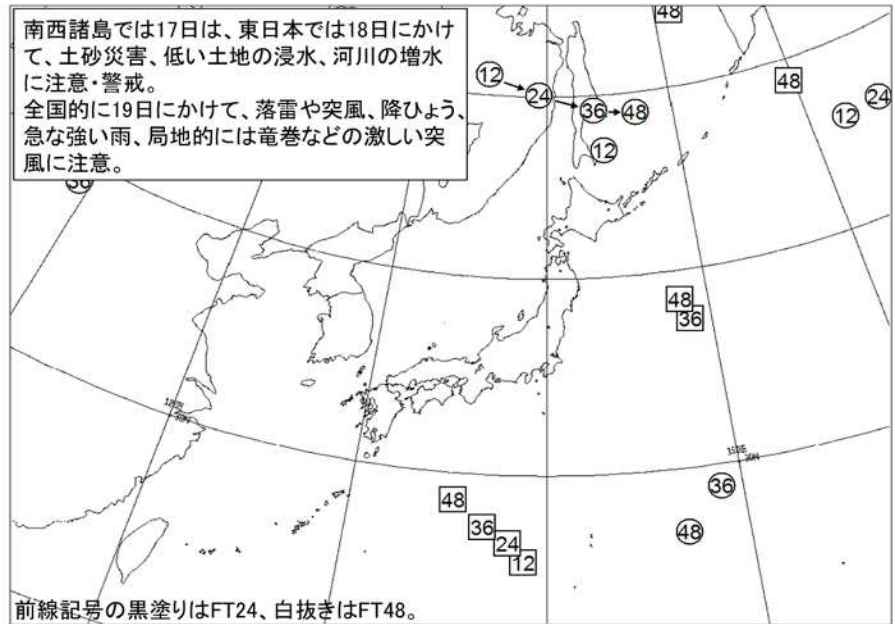


1. 実況上の着目点

- ① 日本の南の太平洋高気圧が、本州付近を覆っており、17日9時の高層観測では、館野の850hPaで22.8℃を観測。全国的に晴れて広範囲で真夏日となっており、西～東日本では猛暑日となっている所がある。
- ② 停滞前線が華南～東シナ海にのびており、近傍では活発に発雷し、非常に激しい雨や猛烈な雨を解析、先島諸島付近でメソサイクロンを検出。
- ③ 500hPa 5820m付近で-9℃以下の寒気を伴うトラフが華中付近を東進。



主要じょう乱解説図

- ④ 低気圧が北海道の西を東北東進。低気圧と①の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、北日本と南西諸島～東日本の沿岸部を中心に、やや強い風や強い風の吹いている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の太平洋高気圧は19日にかけて日本の南をゆっくり北西へ移動する。また、18日夜には、別の高気圧が日本の東に発生する。日本付近は19日にかけてこれらの高気圧に覆われ、北～西日本では850hPaの気温が平年と比べて5℃以上高い状態が続く。このため、晴れて気温が上昇し、全国的に広い範囲で真夏日となり、最高気温が35℃以上の猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に留意（熱中症警戒アラートを参照）。
- ② 1項②の前線は17日夜までに不明瞭化する。また、1項③のトラフは、17日夜は黄海付近に進み、次第に浅まりながら、18日は日本海に、19日は北日本を通過して日本の東に進む。このため、18～19日は、北～西日本の500hPa付近に-6℃以下の寒気が流れ込む。
- ③ 1項②の前線に向かう下層暖湿気、2項①の高気圧の縁を回る下層暖湿気や日中の昇温、2項②の上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨が降り大雨となる所がある。全国的に19日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。南西諸島では17日は、東日本では18日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。
- ④ 1項④の低気圧は、17日夜までにサハリン付近に進み、次第に不明瞭化する。また、500hPa 5640m付近の寒冷渦に対応する低気圧が18日から19日にかけて、アムール川下流付近から千島近海へ進む。低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、北日本ではやや強い風の吹く所がある。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

- ② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。
- ③ 高潮(明日まで)：西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。